【信濃毎日新聞学習シート第577回（6）】

１面のコラム「斜面（しゃめん）」を読もう

斜面

2024.4.26

作家の長野まゆみさんはデパートの勤務経験がある。新人研修で最初にたたき込まれたのが、自社の包装紙の扱いという。破れたり包み直したりして使えなくなっても、きれいに畳んで指定場所に保管する。丸めてごみ箱へ―は厳禁だ◆返品を包んだ紙も伝票類をはがし、来店客がごみ箱に捨てた紙も拾う。自社の名前やデザインが入った包装紙は、それほど神聖なものだった。日々の心がけが、特別感を漂わせる丁寧な包み方にもつながっている。著書「あのころのデパート」で知った◆独特の流儀はほかにもある。落とし物の館内放送が業務連絡の符丁だったり、BGMで天気の変化を店員に知らせたり。おじぎは状況で角度を使い分け、接頭語の「お」や「ご」を多用して接客する。徹底した心遣いで、ささやかなぜいたくと非日常を楽しめる場をつくっていた◆百貨店の井上が、松本駅前で営業する本店を来年3月末で閉じるという。駅前で40年余り、商業施設だけでなく地域の情報や流行の発信地としての役割も担った。人生の節目で必要なものをそろえたり、大切な人への贈り物を選んだりした人も多かろう◆バブル崩壊後の景気低迷からコロナ禍にかけて、地方のデパートは苦境が続いた。規制緩和で郊外型の大規模小売店が進出し、ネット通販も盛んになった。デパートでなくても欲しいものは手に入る。時代の流れと言えばそれまでだけれど、デパートが培った心遣いの文化は失いたくない。

斜面

2024.4.27

拍手の中、晴れ着姿の親子が手をつないで入場する。園児たちはうれしそうで、恥ずかしそうで、誇らしげだ。「歌を歌ったり、虫探しや木の実やお花をみつけたりして、自然の中でたくさん楽しみましょう」と笑顔の園長先生が言う◆この時期のケーブルテレビは地域の入学式や入園式を放送している。中山間地では入園児が減りつつあるけれど、春が来るごとに、階段をまた一つ上ってゆく小さな背中がまぶしい。ささやかな喜びを積み重ねる暮らしは、それぞれの地で営まれている◆「人口戦略会議」と称する団体が全国の自治体の「持続可能性」を発表した。女性の人口の推計から分析したものという。県内では26市町村が「消滅可能性自治体」とされた。「消滅」とは自治体の運営が立ちゆかなくなる状況だというが、故郷が消え去ってゆくイメージがある◆自治体の分類に用いたこの刺激的な言葉は同様の分析が公表された10年前と同じだ。人口減少の厳しさを誰よりも実感し、なおもそこで生活している人々への無遠慮と鈍さを思った。きのうの本紙が伝えた首長や住民の声は、冷静ながら戸惑ってもいた◆自治体を一方的に評価して、女性に出産を迫り、地域に競争を強いて、非効率な自治体に「退場」を促す―。生身の人間の意思や希望を顧みない、そんな号令がまた大きくならないか。豊かさを感じる多様な環境を住民自らが作り上げてこそ、人は自然に集い、地域は永らえてゆくはずだ。

【信濃毎日新聞学習シート第577回（6）】

１面のコラム「斜面（しゃめん）」を読もう

ひらがなを漢字になおして書きましょう。

斜面

2024. 4. 27

はくしゅのなか、はれぎすがたのおやこがてをつないでにゅうじょうする。えんじ**たち**はうれしそうで、はずかしそうで、ほこらしげだ。「うたをうたったり、むしさがしやきのみやおはなを**みつけたり**して、しぜんのなかでたくさんたのしみましょう」とえがおのえんちょうせんせいがいう◆このじきのケーブルテレビはちいきのにゅうがくしきやにゅうえんしきをほうそうしている。ちゅうさんかんちではにゅうえんじがへりつつあるけれど、はるがくるごとに、かいだんをまたひとつのぼってゆくちいさなせなかがまぶしい。ささやかなよろこびをつみかさねるくらしは、それぞれのちでいとなまれている◆「人口戦略会議」としょうするだんたいがぜんこくのじちたいの「じぞくかのうせい」をはっぴょうした。じょせいのじんこうのすいけいからぶんせきしたものという。けんないでは26しちょうそんが「しょうめつかのうせいじちたい」とされた。「しょうめつ」とはじちたいのうんえいがたちゆかなくなるじょうきょうだというが、こきょうがきえさってゆくイメージがある◆じちたいのぶんるいにもちいたこのしげきてきなことばはどうようのぶんせきがこうひょうされた10ねんまえとおなじだ。じんこうげんしょうのきびしさをだれよりもじっかんし、なおもそこでせいかつしているひとびとへのぶえんりょとにぶさをおもった。**きの**うの本紙がつたえた首長やじゅうみんのこえは、れいせいながらとまどってもいた◆じちたいをいっぽうてきにひょうかして、じょせいにしゅっさんをせまり、ちいきにきょうそうをしいて、ひこうりつなじちたいに「たいじょう」をうながす―。なまみのにんげんのいしやきぼうをかえりみない、そんなごうれいがまたおおきくならないか。ゆたかさをかんじるたようなかんきょうをじゅうみんみずからがつくりあげてこそ、ひとはしぜんにつどい、ちいきはながらえてゆくはずだ。

太字や固有名詞などの漢字は原文のままです。

【信濃毎日新聞学習シート第577回（6）】

コラム「斜面（しゃめん）」を読んで考えを深めよう

年　　組　名前

斜面

2024.4.26

作家の長野まゆみさんはデパートの勤務経験がある。新人研修で最初にたたき込まれたのが、自社の包装紙の扱いという。破れたり包み直したりして使えなくなっても、きれいに畳んで指定場所に保管する。丸めてごみ箱へ―は厳禁だ◆返品を包んだ紙も伝票類をはがし、来店客がごみ箱に捨てた紙も拾う。自社の名前やデザインが入った包装紙は、それほど神聖なものだった。日々の心がけが、特別感を漂わせる丁寧な包み方にもつながっている。著書「あのころのデパート」で知った◆独特の流儀はほかにもある。落とし物の館内放送が業務連絡の符丁だったり、BGMで天気の変化を店員に知らせたり。おじぎは状況で角度を使い分け、接頭語の「お」や「ご」を多用して接客する。徹底した心遣いで、ささやかなぜいたくと非日常を楽しめる場をつくっていた◆百貨店の井上が、松本駅前で営業する本店を来年3月末で閉じるという。駅前で40年余り、商業施設だけでなく地域の情報や流行の発信地としての役割も担った。人生の節目で必要なものをそろえたり、大切な人への贈り物を選んだりした人も多かろう◆バブル崩壊後の景気低迷からコロナ禍にかけて、地方のデパートは苦境が続いた。規制緩和で郊外型の大規模小売店が進出し、ネット通販も盛んになった。デパートでなくても欲しいものは手に入る。時代の流れと言えばそれまでだけれど、デパートが培った心遣いの文化は失いたくない。

①デパートの従業員（じゅうぎょういん）にとって、自社の名前やデザインが入った包装紙（ほうそうし）は、どんなものなのですか。

②コラム「斜面」の筆者は、何を失いたくないと述（の）べていますか。

③コラム「斜面」を読んで、あなたはどう考えますか。２００字程度で書きましょう。

【信濃毎日新聞　高校学習シート第405回（5）】

コラム「斜面」を読んで考えを深めよう

年　　組　　番　名前

斜面

2024.4.26

作家の長野まゆみさんはデパートの勤務経験がある。新人研修で最初にたたき込まれたのが、自社の包装紙の扱いという。破れたり包み直したりして使えなくなっても、きれいに畳んで指定場所に保管する。丸めてごみ箱へ―は厳禁だ◆返品を包んだ紙も伝票類をはがし、来店客がごみ箱に捨てた紙も拾う。自社の名前やデザインが入った包装紙は、それほど神聖なものだった。日々の心がけが、特別感を漂わせる丁寧な包み方にもつながっている。著書「あのころのデパート」で知った◆独特の流儀はほかにもある。落とし物の館内放送が業務連絡の符丁だったり、BGMで天気の変化を店員に知らせたり。おじぎは状況で角度を使い分け、接頭語の「お」や「ご」を多用して接客する。徹底した心遣いで、ささやかなぜいたくと非日常を楽しめる場をつくっていた◆百貨店の井上が、松本駅前で営業する本店を来年3月末で閉じるという。駅前で40年余り、商業施設だけでなく地域の情報や流行の発信地としての役割も担った。人生の節目で必要なものをそろえたり、大切な人への贈り物を選んだりした人も多かろう◆バブル崩壊後の景気低迷からコロナ禍にかけて、地方のデパートは苦境が続いた。規制緩和で郊外型の大規模小売店が進出し、ネット通販も盛んになった。デパートでなくても欲しいものは手に入る。時代の流れと言えばそれまでだけれど、デパートが培った心遣いの文化は失いたくない。

①コラム「斜面」を読んで、筆者が言いたいことを簡潔に書きましょう。

②【意見提示】　「斜面」の内容に対するあなたの意見を書きましょう。

③【展開】　あなたの意見の根拠を三つ書きましょう。

（　　）　（　　）　（　　）

伝えたい順番

【信濃毎日新聞学習シート第577回（6）】

コラム「斜面（しゃめん）」を読んで考えを深めよう

解答例

年　　組　名前

斜面

2024.4.26

作家の長野まゆみさんはデパートの勤務経験がある。新人研修で最初にたたき込まれたのが、自社の包装紙の扱いという。破れたり包み直したりして使えなくなっても、きれいに畳んで指定場所に保管する。丸めてごみ箱へ―は厳禁だ◆返品を包んだ紙も伝票類をはがし、来店客がごみ箱に捨てた紙も拾う。自社の名前やデザインが入った包装紙は、それほど神聖なものだった。日々の心がけが、特別感を漂わせる丁寧な包み方にもつながっている。著書「あのころのデパート」で知った◆独特の流儀はほかにもある。落とし物の館内放送が業務連絡の符丁だったり、BGMで天気の変化を店員に知らせたり。おじぎは状況で角度を使い分け、接頭語の「お」や「ご」を多用して接客する。徹底した心遣いで、ささやかなぜいたくと非日常を楽しめる場をつくっていた◆百貨店の井上が、松本駅前で営業する本店を来年3月末で閉じるという。駅前で40年余り、商業施設だけでなく地域の情報や流行の発信地としての役割も担った。人生の節目で必要なものをそろえたり、大切な人への贈り物を選んだりした人も多かろう◆バブル崩壊後の景気低迷からコロナ禍にかけて、地方のデパートは苦境が続いた。規制緩和で郊外型の大規模小売店が進出し、ネット通販も盛んになった。デパートでなくても欲しいものは手に入る。時代の流れと言えばそれまでだけれど、デパートが培った心遣いの文化は失いたくない。

①デパートの従業員（じゅうぎょういん）にとって、自社の名前やデザインが入った包装紙（ほうそうし）は、どんなものなのですか。

【解答】神聖なもの

②コラム「斜面」の筆者は、何を失いたくないと述（の）べていますか。

【解答】デパートが培った心遣いの文化

③コラム「斜面」を読んで、あなたはどう考えますか。２００字程度で書きましょう。